

IV. 森林・山村多面的機能発揮対策の情報提供・共有

1. 活動事例集

(1) 活動組織の選定及びヒアリングの実施

全国の協議会向けのアンケート調査を通じて、①活動組織の自立化、②地域活性化への寄与の2つの視点から活動組織を推薦してもらい、広く一般に紹介できるような活動組織を一次選定した。その後、推薦された活動組織の活動を、活動計画書（必要に応じて各団体のホームページ）を基に分析し、事例集に掲載する13団体を二次選定した。

以下の13団体に対して、アンケート形式及びヒアリング形式により、活動内容について情報収集をおこなった。

図表 40 ヒアリングを実施した活動組織一覧

No	活動組織名	所属県
1	(一社) もりびと	千葉
2	西根森づくりの会	山形
3	フォレストセイバー「正人どんの郷」	福岡
4	穴塚の自然と歴史の会	茨城
5	下毛の里自伐型林業研究会 小川内地区活動組織	大分
6	尾捨山森林クラブ	和歌山
7	NPO 法人丹波グリーンパートナー	兵庫
8	南草津里山クラブ	群馬
9	尾形原の森を育てる会	宮崎
10	森林資源活用フォーラム	岐阜
11	天竜川鷲流峡復活プロジェクト	長野
12	松戸里やま応援団 樹人の会	千葉
13	尾前里山保全の会	宮崎

(2) 活動事例集の構成、掲載内容

活動組織に対するアンケート及びヒアリング内容を基に、活動事例集の構成を以下のとおり整理した。はじめに目次（事例一覧表）を掲載し、活動内容を「第1章 森林整備等による地域活性化の事例」、「第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例」の順に掲載した。

図表 41 活動事例集の構成、掲載内容

章	内容	頁
目次・掲載団体一覧		3
第1章 森林整備等による地域活性化の事例	1. 森林の利活用によるにぎわい・交流 ・森林を整備し、住民が集う、楽しむ場として活用 ・かつて子供が遊びまわった里山林を、地域の力で再生 ・集落の山林からの薪で、地域住民と都市住民をつなぐ	4
	2. 森林のめぐみによる地域の活性化 ・森林整備によって地域外から人を呼び込む ・林産材をクッキング用薪材や、木工クラフトで活用 ・「木の駅プロジェクト」を通じた森林再生の取組	6
	3. 森林に関わる教育・自然体験 ・大学生のフィールドワークで森林整備の体験	8
	4. 生物多様性保全 ・里山生態系と歴史・文化の保全、継承 ・シカの食害対策のための森林整備	
	5. 災害に強い森づくり ・災害に強い森の整備と、防災意識の啓発活動	9
第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例	1. 活動仲間集めの工夫 ・継続的な会報発行、行政・学校との連携 ・子育て世代へ配慮した森林整備 ・新聞やSNSによる地域外への参加呼びかけ ・地域のつながり、組織との関わりを活かした活動	10
	2. 活動メンバーの意識向上・スキルアップ ・竹林整備における安全管理の徹底 ・チェーンソーのメンテナンス技術の向上 ・自伐型林業を進めるための作業道整備方法の習得 ・危険木の伐倒技術の向上	12
	3. 新たな資金源の獲得 ・竹林整備とメンマの製造・販売の取組 ・林地残材を活用したアロマ生産・販売 ・間伐材等の有効活用	14
	4. 他団体との連携強化、情報・ノウハウ共有 ・他団体との交流によるスキルアップ・情報共有 ・県外の活動組織に活動・フィールド紹介	16
	5. 専門家や企業との連携による活動の発展 ・森林インストラクターや宿泊施設と連携した自然観察会 ・企業CSRと連携しての里山保全	17



平成30年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金

活動事例集



目次

第1章 森林整備等による地域活性化の事例

1. 森林の利活用によるにぎわい・交流4
2. 森林のめぐみによる地域の活性化6
3. 森林に関わる教育・自然体験8
4. 生物多様性保全8
5. 災害に強い森づくり9

第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例

1. 活動仲間集めの工夫10
2. 活動メンバーの意識向上・スキルアップ12
3. 新たな資金源の獲得14
4. 他団体との連携強化、情報・ノウハウ共有16
5. 専門家や企業との連携による活動の発展17



掲載団体一覧

活動団体名	活動所在地		交付金タイプ					掲載ページ
	都道府県	市町村	里山	竹林	資源	機能	教育	
西根森づくりの会	山形県	長井市	●		●		●	8,12
認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会	茨城県	土浦市	●	●			●	8,10,17
南草津里山クラブ	群馬県	吾妻郡草津町	●		●			6
松戸里やま応援団 樹人の会	千葉県	松戸市		●				4,10
一般社団法人もりびと	千葉県	長生郡長南町	●				●	13,15,17
天竜川鷲流峡復活プロジェクト	長野県	飯田市		●			●	11,14
森林資源活用フォーラム	岐阜県	高山市		●	●			15
NPO法人丹波グリーンパートナー	兵庫県	丹波市	●		●		●	7,9
尾捨山森林クラブ	和歌山県	東牟婁郡智勝浦町	●	●			●	9,11
フォレストセーバー「正人どんの郷」	福岡県	嘉麻市	●	●	●	●	●	5,12,16
下毛の里自伐型林業研究会 小川内地区活動組織	大分県	中津市	●			●		5,13
屋形原の森を育てる会	宮崎県	延岡市	●			●	●	16
尾前里山保全の会	宮崎県	東臼杵郡椎葉村		●	●		●	6

交付金タイプ凡例

地域環境保全(里山林保全)

里

地域環境保全(侵入竹・竹林整備)

竹

森林資源利用

資

森林機能強化

機

教育・研修活動

教

第1章 森林整備等による地域活性化の事例

全国の様々な活動組織が実施する、地域の里山林の自然を活かし、地域の活性化につながる取組を紹介します。

1. 森林の利活用によるにぎわい・交流

森林を整備し、住民が集う、楽しむ場として活用

松戸里やま応援団 樹人の会（千葉県） 竹

活動組織は、市が毎年度開講する「里山ボランティア入門講座」の修了生で構成されています。都市開発によって残存した市内の里山林の荒廃が進んでおり、「野うさぎの森」を整備することで、森林動植物の生息地の維持と市民が自然を楽しむ森づくりを行っています。

当会は松戸市主催の「オープンフォレスト」において、保全林の紹介等を行ったことで、活動が市民に理解され、新たな会員の活動への参画にもつながっています。



オープンフォレスト開催の様子

森林が整備されたことで、地域の交流も生まれつつあります。活動対象の竹林で七夕竹の伐り出しを行ったことをきっかけに、地域のお母さんたちのグループ「読書応援団」との交流が生まれ、「読書応援団」は整備した森林を活動拠点として利用し始めました。林内は活動のための話し合いの場や本について語り合う「森でのブックトーク」の場として利用されています。



お母さんたちによる「森のブックトーク」



森林整備前



森林整備後

かつて子供が遊びまわった里山林を、地域の力で再生

フォレストセーバー「正人どんの郷」（福岡県）

里 竹 資 機 教

活動組織は、上西郷久吉地区の隣組単位30戸で構成されています。荒廃した森林、竹林を、子供たちの活動できるフィールドとして再生させるため、荒廃竹林の整備と、伐採した竹の有効活用を行っています。これまでの活動によって再生された里山林では、子供が自分たちで里山林に入って遊ぶようになりました。

交付金外活動として、ツリークライミングや森林ヨガ等のイベントを開催し、普段里山林に入ることのなかった人たちが里山林を大切にし、守る活動のきっかけになりました。



竹林での粉碎作業

集落の山林からの薪で、地域住民と都市住民をつなぐ

下毛の里自伐型林業研究会小川内地区活動組織（大分県）

里 機

活動組織は、地区在住者、Uターン者・Iターン者で構成されています。先祖代々守り続けてきた集落の山林が荒廃していることから、除伐・間伐を行い薪材として搬出しています。

「薪交流会」を開催し、間伐した木材を近隣の広場で薪材用に配布・販売を行っています。都市部に居住している薪ストーブ所有者も多く参加しており、山林に対する興味・関心を高める、意識啓発の要素を持ったイベントになっています。



薪交流会の様子

2. 森林のめぐみによる地域の活性化

森林整備によって地域外から人を呼び込む

尾前里山保全の会（宮崎県）

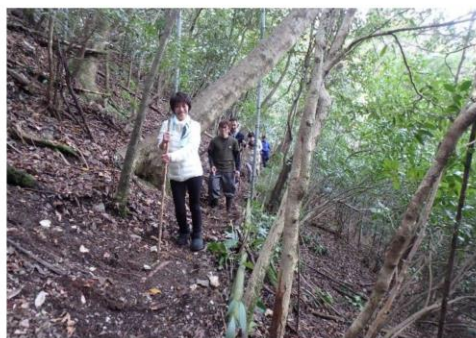
竹

資

教

活動組織は、主に地元住民（林業関係者など）で構成されており、地域の荒廃した竹林・広葉樹林の整備を行っています。森林整備と観光整備を2本の柱とすることで、活動の継続・発展に繋がっています。

整備した森林に観光協会のスタッフを招き、森林や林内で発見された洞窟を案内したことをきっかけに、SNSや新聞・テレビで「奥椎葉のパワースポット」として紹介され、地域内外から人が集まるようになりました。



整備森林内での訪問者の受入れ

交付金外活動として森林内にツリーハウスや屋外ステージも設置しました。これらの利用を目的とした訪問者も多く集まるようになりました。

椎葉村観光協会では、チラシ・ホームページ等を通じて、整備した森林「トム・ソーヤの森」での体験イベントを積極的にPRしています。椎葉村地域振興課との連携も進めており、地域外からも人がさらに集まるような取組を進めています。

林産材をクッキング用薪材や、木工クラフトで活用

南草津里山クラブ（群馬県）

里

資

活動組織は、主に都会から活動地域に移住したメンバーで構成されています。森林所有者が管理できなくなった森林を協力して除伐・間伐を行っています。

森林資源利用タイプでは、林床にある除伐材や、必要な材を伐り出し、どんぐりなどの林産物を採取し、近隣のテーマパークで（一社）婦恋軽井沢自然倶楽部が行う薪割り体験やクッキング教室の薪燃料、木工クラフトの材料として有償で提供し、活用しています。



薪割り体験での材の利用

「木の駅プロジェクト」を通じた森林再生の取組

NPO法人丹波グリーンパートナー（兵庫県）

里 資 教

活動組織は、NPOのメンバーと各対象地近隣の有志で構成されています。整備活動は丹波市木の駅プロジェクトとも連携して行っており、市内各地域の自治会有志、退職後のUターン者・Iターン者、兼業農家の方々とともにを行っています。

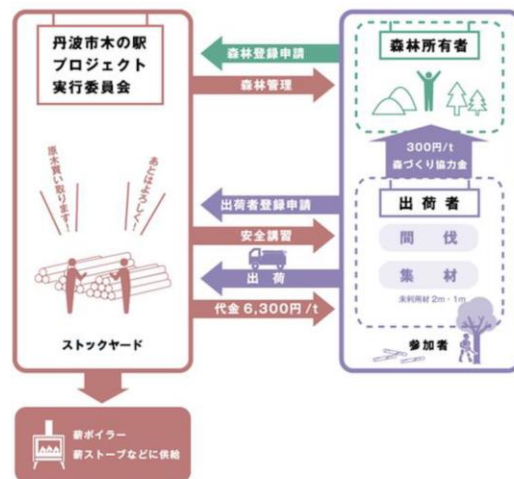
交付金を活用して、地域住民主体の森林整備活動を進めています。また、地域住民による森林整備を安全に進めるため、安全教育、技能訓練等を実施しています。

その他、森林所有者を含む兵庫県民への教育の場となる”教育の森”設置のための森林整備も行っています。

「木の駅プロジェクト」との連携を通じて、住民が森林に関わるための仕組みを作り、放置された人工林を転換し、生産、生活利用、空間利用できる地域の望む森を作ることを目指しています。

また、整備活動から出た間伐材、林地残材を、薪として地域でのエネルギー利用を進めることで、エネルギーの地産地消、小規模地域での循環型社会構築を目指しています。

丹波市木の駅プロジェクトは実行委員会に所属するメンバーとともに森林整備を進め、薪材を搬出しています。現在、約100名の出荷登録者がいますが、より多くの人が安全に森林整備と薪出荷に関われるように、新規登録者に対する安全教育（安全教育、チェーンソー講習等）を徹底して行っています。



木の駅プロジェクトの仕組み

丹波市木の駅プロジェクトは、全国の既存の木の駅プロジェクトの良い例を参考に、2016年より市とともに設立し活動を開始した市民参加型で森林整備を進める仕組みです。

山の木を伐採し、集材、ストックヤードに出荷すれば、NPOが買い取ります。集まった材を薪に加工し、薪ボイラーや薪ストーブの燃料として循環させます。

（資料）丹波市木の駅実行委員会



木の駅への薪出荷の様子

3. 森林に関わる教育・自然体験

大学生のフィールドワークで森林整備の体験

西根森づくりの会（山形県）

里

資

教

活動組織は、長井市大字勸進代地区の住民を中心に、幅広い職歴・年代のメンバーで構成されています。交付金を活用して、自治組織「勸進代区」の共有地である山林を整備しています。

大正大学の学生の研修受入れを行っており、農業や地域との関わり等についての座学、山林散策、人工林観察、枝打ち・玉切り・チェーンソー体験等のフィールドワークを実施しています。学生に興味を持ってもらうためにはインパクトが重要と考え、強烈な思い出を作ることには留意しています。また、対象地域が最上川の源流域であることから、川の水質保全にととの森づくりの重要性も伝えています。



大学生によるフィールドワークの様子

4. 生物多様性保全

里山生態系と歴史・文化の保全、継承

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会（茨城県）

里

竹

教

活動組織は、土浦市、つくば市近郊の住民を中心に、全国各地の会員で構成されています。活動地である「宍塚の里」は、環境省モニタリング1000に登録された、里山の生物にとって重要な生息環境となっています。

交付金を活用して、蝶が飛び交う森の整備を行い、毎週の「土曜日観察会」や担当者による蝶の調査を実施しています。

当会では、聞き書き等を通じて地元住民との関係性を作り、市役所等との意見交換をし、地元と行政の立場それぞれを大切にしながら、里山（自然と農）の保全活動の継続・充実化を実現してきました。



下草の刈払いの様子

シカの食害対策のための森林整備

尾捨山森林クラブ（和歌山県）

里

竹

教

活動組織は、代表を中心に、地域への移住者、鳥羽山林業のメンバーで構成されています。活動地域の地区と連携して獣害対策のための森林整備活動を行っています。

シカの食害により林内の植物や周辺の農作物に大きな被害が発生していました。活動によって下刈りや除伐、間伐が進んだことによりシカの隠れ場所がなくなり、食害は軽減しています。林内は、シカの好まない植物のみとなり生物多様性が失われていましたが、森林整備によって林内に生育する植物も戻ってきています。

また、獣害対策用に購入したネットの設置を地区の住民と連携して行っています。



除伐・間伐作業の様子

5. 災害に強い森づくり

災害に強い森の整備と、防災意識の啓発活動

NPO法人丹波グリーンパートナー（再掲）

里

資

教

2014年に丹波市市島町を中心に発生した記録的な豪雨により、多数の斜面崩壊が起こり、土砂の流出により山裾の住宅や集落、農地に多大な被害をもたらしました。

当組織では、豪雨で崩れた山林の復旧作業を行うとともに、対象地域の各林分に対して、防災、植生等の観点から調査を行い、調査結果に基づいて、残材や土砂の流出を防ぐ災害に強い森づくりへの整備方針と実施計画を策定しています。

学校やNGO等の視察を多く受け入れており、そのような機会を活かして、防災における森林整備の重要性を発信しています。



活動対象の森林の様子

第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例

活動のステップアップや森林整備活動の継続につながる、
全国の活動組織の取組や工夫を紹介します。

1. 活動仲間集めの工夫

継続的な会報発行、行政・学校との連携

認定NPO法人穴塚の自然と歴史の会（再掲）

里 竹 教



会報「穴塚大池のお知らせ」

当会では会報「穴塚大池のお知らせ」を毎月発行し、2019年1月で創刊以来350号を迎えます。地域住民や茨城県、土浦市の各部署及び議員等にも会報を配布し、地域住民や行政に活動を理解してもらい、里山体験活動への参加を促しています。

会報作成にあたっては、理事も参加する運営会議を月1回開催し、会報の内容を決めています。編集、印刷、袋詰め各担当の会員が毎月7～8名集まり、協力しあって作成・発送しています。

当初は会員が自ら各小学校に直接配布していましたが、市教育委員会のポストを利用させてもらうこととなり、土浦市・つくば市の小学校に毎月1万4000枚を配布しています。

会報には、子供向けのイベント情報（月例テーマ観察会や里山子ども探偵団）を掲載し、小学生とその親が家族ぐるみで活動に参加するように案内しています。

子育て世代へ配慮した森林整備

松戸里やま応援団 樹人の会（再掲） 竹

当会が活動する地域では、高齢化が進む中、マンション開発により子育て世代が増えていることから、子育て世代を対象に、活動への参加を呼び掛けています。

具体的には、近隣のマンションや保育所に活動内容を記したチラシを配布したり、年1回開催する「オープンフォレスト」の来訪者に活動の意義や内容を説明したりすることで、入会を勧めています。

また、イベント開催にあたっては、市の支所を通じたチラシ配布や、他の自然保護団体、地域新聞「リビング」を通じて告知を行っています。

森林内には竹柵を設置するなど、子育て世代にも森林を安全に楽しめるように工夫しています。



活動チラシ

新聞やSNSによる地域外への参加呼びかけ

天竜川鷲流峡復活プロジェクト(長野県)

竹 教



Facebookによる活動発信

活動組織は、主に飯田市竜丘地域自治会と信南交通(株)地域観光事業部を中心に構成されています。放置竹林の伐採・伐採した竹の搬出作業、搬出した竹を利用した教育研修活動(竹いかだ作りなど)を展開しています。

竜丘地区内では募集チラシを配布して周知し、地域外には新聞社等へプレスリリースを行い、活動への参加を呼びかけました。

また、SNS(Facebook)により、毎回の活動の様子・雰囲気を文章や写真で発信しています。

現在、参加登録者は40人(うち23人が地域内、17人が地域外)となっています。

地域のつながり、組織との関わりを活かした活動

尾捨山森林クラブ(再掲)

里 竹 教

活動組織の代表が地域のお寺の住職を務めており、お寺の会報を通じて森林所有者と連携することができました。

当初、少人数で活動を開始しましたが、「地元を良くしたい」と考える人が徐々に集まり活動人数が増えています。特にチェーンソー講習会を開催することにより、個人で活動していた人たちをつなぎ合わせるできました。

活動を継続することで、近隣の森林所有者からも声が掛かるようになり、活動の場が広がっています。



チェーンソー講習会の様子

2. 活動メンバーの意識向上・スキルアップ

竹林整備における安全管理の徹底

フォレストセーバー「正人どんの郷」(再掲)

里 竹 資 機 教

森林整備の初心者を対象に、チェーンソーや刈払機の使い方に関する講習会を行っています。県主催の研修会の内容を噛み砕いて伝達することが主な内容となっています。

参加者の募集は、口コミが主な方法となっています。

講習は森林組合の有識者の協力を得て、実施しています。安全チャップスの装着といった安全装備の徹底、竹を取り扱う場合の周りへの配慮事項や、竹を効率的に倒す方法などを参加者に学んでもらっています。活動内容に即した安全の基本を学ぶことで、初心者であっても安全に活動に参加することが可能となっています。



竹林伐採作業の様子

チェーンソーのメンテナンス技術の向上

西根森づくりの会(再掲)

里 資 教

本地域では、庭木の管理や薪ストーブの薪割りのために、多くの家庭がチェーンソーを所有しており、メンテナンス方法を知りたいと感じている人が多いです。

西根森づくりの会では、安全にチェーンソーを扱うためには正しいメンテナンス方法を身に着けることが重要と考え、会員と地域住民を対象に、メンテナンスを中心としたチェーンソー研修を実施しています。伐採業者を講師として招き、プロの技術を伝授していただいています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

座学でメンテナンス方法について学んだ後、実際にメンテナンスを行います。メンテナンスしたチェーンソーを使って玉切りを実施し、メンテナンスの重要性について理解します。



チェーンソーのメンテナンスを学ぶ参加者

自伐型林業を進めるための作業道整備方法の習得

下毛の里自伐型林業研究会小川内地区活動組織（再掲）

里

機

県などが主催する安全講習を受けた方（森林整備活動の初心者）を対象に、作業道の整備、チェーンソーの使用方法的講習を行っています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

講習では、ミニバックホー等の小型機器を利用し、作業を効率的にするため作業道の敷設方法についても指導を行っています。

参加者を増やすための工夫として、作業の楽しさを感じてもらうことを意識して講習を行っています。また、間伐や伐採によって「どんな山を目指したい」のか考えてもらうことも大切にしています。



活動森林内で整備された森林作業道

危険木の伐倒技術の向上

一般社団法人もりびと（千葉県）

里

教

県などが主催する安全講習を受けた方（森林整備活動の初心者）を対象に、人工林や広葉樹林の伐倒方法の講習を行っています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

参加者が木を倒す方向と木の倒し方を体験して理解に繋げることが重要であると考えており、実際に伐倒を体験してもらっています。

座学だけでは学べない現場の空気を体感してもらい、より実践に近い講習にすることで、参加者の増加に繋がっています。



伐倒方法の講習会の様子

3. 新たな資金源の獲得

竹林整備とメンマの製造・販売の取組

天竜川鷲流峡復活プロジェクト(再掲)

竹 教

当プロジェクトでは、鷲流峡4.5haの放置竹林の整備を行っています。活動3年目から竹資源の活用、竹林整備後の維持管理、活動資金の確保という視点から、国産メンマの製造、販売に取り組んでいます。

当初は地元の食品加工グループと連携してメンマの試作等に取り組み、製造・販売を行いました。現在では2つの食品企業「(有)あちの里」、「丸昌稲垣(株)」に製造を委託し、当プロジェクトが販売を行っています。

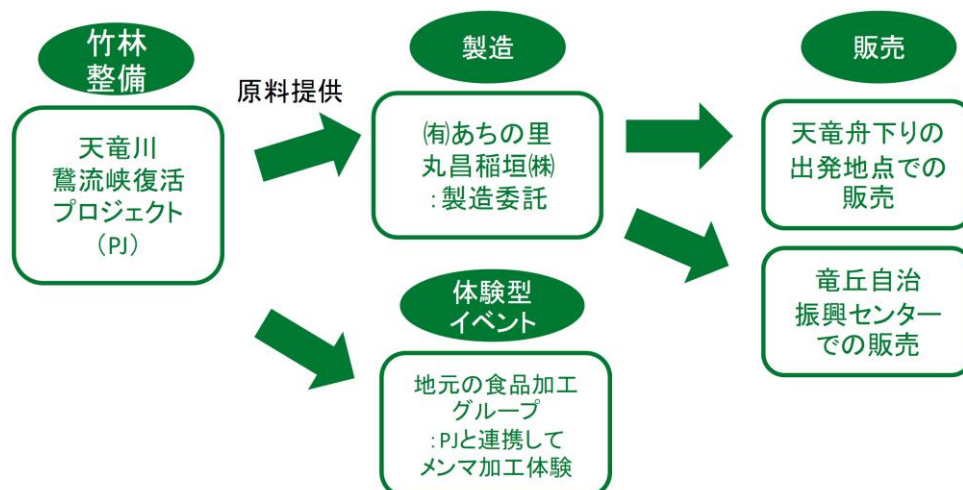
当プロジェクトの代表と事務局が中心となり、商品のマーケティングを行っています。



竹林整備の様子



メンマ作りの様子



竹林整備～メンマの製造・販売までの体制図

林地残材を活用したアロマ生産・販売

森林資源活用フォーラム(岐阜県)

竹

資

活動組織は、正プラス株式会社、株式会社パルステクノロジー、森林たくみ塾のメンバーで構成されています。天然林を整備し、未利用材をアロマオイル等の材料として活用しています。

活動対象地には、30年近く手入れされていない森林があり、林床にはササ類が繁茂していました。交付金を活用し、整備を進めることでアロマオイル等の材料となる木がよく生育する森林となりました。

団体のメンバーである正プラス株式会社が、アロマオイルの製造、商品開発、販売を手掛けています。地域に生育している樹種の中から13品目を選定し、アロマオイルを製造しています。アロマオイル等の販売による収益は地域の活性化にも貢献しています。



採取活動の様子



開発したアロマ製品

間伐材等の有効活用

活動組織は、移住者や地元住民など、幅広い職歴・年代で構成されています。活動組織の代表がこれまで培ってきたつながりを通じて、様々な林産物を販売しています。

木や天然素材の手作り品キットは、地域の手作り市に出店するクラフト作家さんと連携して販売を行っています。

竹炭うどんは、活用先の乏しい竹を収益化するために開発したもので、竹粉の精製から製麺までの様々な点について専門業者とともに工夫をこらし、商品化につなげました。

若い人たちが地域の森林整備を行っていく上で、ボランティアだけでは続けていくことはできないため、収益化を意識した組織の運営を行っています。

一般社団法人もりびと(再掲)

里

教



森林整備作業の様子



販売用の木工クラフト



竹炭うどんと石けん

15

4. 他団体との連携強化、情報・ノウハウ共有

他団体との交流によるスキルアップ・情報共有

屋形原の森を育てる会(宮崎県)

里

機

教

活動組織は、母体となる延岡自伐型林業研究会の会員を中心に構成されています。屋形原(やかたばる)の森を育てる会の名称で約7ヘクタールの山林で自伐型林業の研修、普及を行っています。

自伐型林業推進協会の講師から指導を受けており、全国から自伐型林業に関する情報を入手しています。

自伐型林業を進めている九州地方の他団体と、ブログを経由して連絡を取りあい、研修会に参加したことをきっかけに、交流が生まれました。年2回ほど研修会に参加して進捗を共有し刺激を受けています。

他の自伐型林業研究会とも連携し、作業技術や、林業経営、当交付金の活用方法、資機材の調達方法などの情報やノウハウを共有することで、スキルアップが可能となっています。



作業道路整備研修「木組み補強」の様子

県外の活動組織に活動・フィールド紹介

フォレストセーバー「正人どんの郷」(再掲)

里

竹

資

機

教

当組織では、長崎森林・山村対策協議会が主催する、県外の活動組織との交流会の受入れを行いました。20～30名程度の活動家が整備した森林に来訪し、森林整備の内容や技術的な方法について意見交換を行いました。

活動やフィールドの紹介を行ったことで、他活動組織との連携が取れるようになりました。



県外活動交流会の様子

5. 専門家や企業との連携による活動の発展

森林インストラクターや宿泊施設と連携した自然観察会

一般社団法人もりびと（再掲） 里 教

整備された森林に地域内外から人が集まるように自然観察会を開催しています。小学生や家族連れ、大学生、高齢者など様々な方々が参加しており、参加者には里山や森林整備を身近に感じてもらっています。

自然観察会では、都市部では見られない昆虫を観察するために森林インストラクターと連携したり、遠方からの来訪者向けに近隣の廃校を利用した宿泊施設と連携したりするなど、活動組織以外の方とも連携を深めながらイベントを開催しています。

このような連携により、地域の魅力の発信や提供できる観察会の幅が広がりました。また、会員も森の多様な見方ができるようになり、大きな効果を得ています。



自然観察会の様子

企業CSRと連携しての里山保全

認定NPO法人実塚の自然と歴史の会（再掲） 里 竹 教

当会では企業のCSR活動と連携した里山保全を十数年間実施しています。

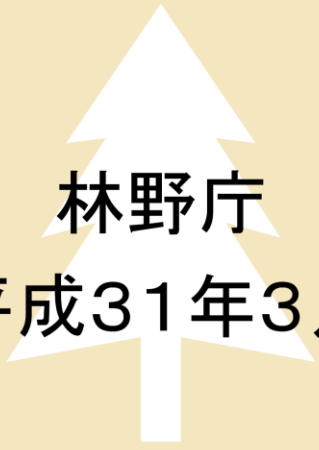
現在の連携先との関係は、企業の担当者が会のホームページを通して活動内容を知り、会に連絡を頂いたことから始まりました。

会の中心となって活動している「里山さわやか隊」が、場所や資機材をコーディネートし、連携企業の社員を受け入れて草刈等の里山保全活動を行っています。

企業との連携によって、会には森林整備が進むことや、活動への理解が深まるといったメリットが生まれています。企業にとっては地域との信頼関係の構築に役立っています。



企業と共同で実施する里山保全活動

A white stylized tree graphic, resembling a pine tree, is centered on the page. It has a triangular canopy and a vertical trunk.

林野庁
平成31年3月

(3) 過年度活動事例集（データベース）の作成

①.過年度活動事例集

平成 25 年度～平成 29 年度活動事例集から以下の共通（類似）項目で簡易データベース一覧表を作成した。

図表 42 簡易データベース項目

項目	内容
活動組織に関する情報	都道府県
	活動組織名
	活動場所
	活動組織連絡先・ホームページ URL
活動に関する情報	活動タイプ
	団体概要・活動経緯
	活動内容
	活動の工夫・成功を生んだポイント
	活動の成果※
活動の特徴	森林整備による地域の活性化の事例
	継続的な活動実現に向けた自立化の事例
	取組内容のキーワード

※平成 25 年度掲載事例については記載していない。

掲載団体数は以下のとおりである。

図表 43 記載団体数

年度	団体数
平成 25 年度	10
平成 26 年度	21
平成 27 年度	20
平成 28 年度	15
平成 29 年度	10

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 平成25～29年度活動事例一覧表
図表 44 平成25～29年度活動事例一覧表
(※1 平成25・26年度は森林空間利用タイプ ※2 平成27年度より新設された活動タイプ)

No		活動組織			活動タイプ				活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例				継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 里山林 保全	森林資源 利用	教育・研修 活動 (※1)	森林機能強化 (※2)			機材及び資材 の購入	森林の 利活用 による にぎわ い・交 流	森林の めぐみ による 地域の 活性化	森林に 関わる 教育・ 自然体 験	生物多 様性保 全	災害に 強い森 づくり	活動の 仲間 の工夫	活動メ ンバー の意識 向上・ スキル アップ		
1	H25	愛媛県	内子町森林組合	内子町	○				森林組合が里山林再生をリードする	・森林組合との連携 ・森林所有者の合意形成				○					H25	P.2
2	H25	岡山県	上山集楽林業部	美作市					地域おこし協力隊が山村の未来を担う	・地域おこし協力隊員 ・ターンナーの活用	○			○					H25	P.2
3	H25	福岡県	北九州市林業研究グループ	北九州市	○				竹林を整備し地域の課題を解決	・竹林整備のモデル林 ・竹資源の活用	○								H25	P.3
4	H25	熊本県	熊本市河内地区里山再生協議会	熊本市	○				獣害対策の一環としての里山林整備	・鳥獣害対策 ・緩衝帯の整備 ・放置竹林の整備	○								H25	P.3
5	H25	福岡県	みやま市景観まもり隊(福岡県)	みやま市	○				里山林を整備し障害者の自立を支援する	・在宅障がい者の自立支援 ・キノコ類の栽培 ・放置竹林の整備				○					H25	P.4
6	H25	秋田県	九十九島の松をまもる会	にかほ市	○				ふるさとの里山林景観は市民が守る	・植樹活動 ・景観の向上	○								H25	P.4
7	H25	岩手県	間伐材運び隊	紫波町		○			地域住民が連携し間伐材をバイオマス活用	・間伐材の活用				○					H25	P.5
8	H25	富山県	樵舎(たきぎのかい)	南砺市		○			クロモジの安定供給を目指して	・クロモジ栽培 ・タナー者の活用 ・企業との連携	○			○			○		H25	P.5
9	H25	石川県	能登島自然の里ながさき	七尾市		○			里山林資源を活用し地域の生業を創出	・ウラジロの採取 ・地域の生業を創出 ・森林資源の活用			○						H25	P.6
10	H25	北海道	札幌市立駒岡小学校緑の少年団	札幌市			○		学校林を子どもたちの教育に活かす	・環境教育 ・学校林の整備								○	H25	P.6
11	H26	岩手県	遠野馬搬振興会	遠野市		○			地域の伝統「馬搬技術」の伝承と馬を活用した地域づくり	・馬搬技術の伝承 ・里山の整備 ・間伐材の活用	○		○	○					H26	P.2
12	H26	宮城県	館みはらし公園環境整備クラブ	仙台市	○	○			緑豊かな住宅街の新たな魅力発見	・鳥獣害対策 ・景観の向上 ・遊歩道の整備	○			○		○			H26	P.4
13	H26	秋田県	金沢諏訪堂の会	美郷町	○	○			地域の歴史・文化を活かし里山再生に取り組む	・遊歩道の整備 ・バイオマスエネルギー			○	○		○			H26	P.6
14	H26	茨城県	十一面山平地林保全整備促進協議会	常総市	○				桜並木作りにより、地域に長く愛され続ける里山へ	・自然体験活動 ・里山の整備 ・植樹活動	○			○			○		H26	P.8
15	H26	栃木県	那須野が原生きものネットワーク	那須塩原市	○	○			森林資源の活用を進め、持続可能な地域社会の実現を目指す	・森林資源の活用 ・竹資源の活用 ・里山の整備 ・環境教育			○	○		○			H26	P.10
16	H26	埼玉県	NPO法人けやの森自然塾	狭山市	○				里山機能復元と林あそびにより子どもの感性と生きる力を育む	・自然体験活動 ・新たな動植物の発見 ・教育交流会							○		H26	P.12
17	H26	千葉県	おとずれ山の会	市原市	○	○			急がず、楽しみながら100年先を見据えて進める森づくり活動	・自然体験活動 ・里山活動協定締結				○					H26	P.14
18	H26	新潟県	村杉を愛する会	阿賀野市	○	○			周辺森林の整備を温泉街の観光振興に活かす	・観光振興 ・地域交流	○			○		○			H26	P.16

No	年 度	活動組織		活動タイプ				活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例				継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 ・里山林保全	森林資源利用	教育・研修活動 (※1)			森林機能強化 (※2)	機材及び資材の購入	森林のめぐみによる地域の活性化	森林に関わる教育・自然体験	生物多様性保全	災害に強い森づくり	活動の仲間への工夫	活動メンバーの意識向上・スキルアップ		
19	H26	長野県	西山地区の里山を多目的に活用する会	長野市	○	○	○		竹林整備により発生した竹チップの有効利用を進め、地域を活性化	・森林資源の活用 ・竹資源の活用 ・高齢者の生きがいづくり ・自然体験活動	○	○			○	○	○	H26	P.18
20	H26	岐阜県	やまおか木の駅推進会議	恵那市	○	○	○		山仕事実践と体験イベントに地域内外から多数の山仲間が集う	・森林資源の活用 ・鳥獣害対策 ・木の駅プロジェクト ・タナーの活用 ・竹資源の活用	○	○		○	○			H26	P.20
21	H26	福井県	あわらの自然を愛する会	あわら市	○		○		里山の自然再生と学校との連携による次世代の担い手育成	・自然体験活動 ・小学校等との連携		○				○		H26	P.22
22	H26	京都府	NPO法人ビオトープネットワーク京都	京都市	○		○		地域住民の里山づくり活動で、森の復興と地域コミュニティづくり	・里山の整備 ・自然体験活動 ・遊歩道の整備	○		○		○			H26	P.24
23	H26	大阪府	NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会	八尾市	○		○		里山の自然再生を通じ、持続可能な地域づくりを目指す	・ニッポンバラタナゴ保全 ・水源地の森林整備 ・遊歩道の整備 ・環境教育					○			H26	P.26
24	H26	兵庫県	NPO法人あいな里山茅葺同人	神戸市	○				里山景観の再生を通じ、環境保全やまちづくり推進を図る	・大学との連携 ・地域との連携 ・景観の向上 ・生物多様性保全 ・地域交流	○					○		H26	P.28
25	H26	鳥取県	いきいき成器保育園運営協議会	鳥取市			○		里山の恵みの中で、一人ひとりがいきいきと輝く「里山保育」	・里山の整備	○							H26	P.30
26	H26	広島県	一般財団法人もみのき森林公園協会	廿日市市	○		○		間伐材を生かした自然体験プログラムの推進	・自然体験活動 ・バイオマスエネルギー					○			H26	P.32
27	H26	徳島県	板野郡森林組合	阿波市					学校林を活用した林業教育の推進	・学校林の整備 ・環境教育	○							H26	P.34
28	H26	愛媛県	里山を良くする会	今治市		○			伐採竹に付加価値を付け再利用に取り組む	・竹資源の活用		○				○		H26	P.36
29	H26	高知県	こうち森林救援隊	高知市	○	○	○		地域・ボランティア・企業・行政が一体となった協働の森づくり	・水源地の森林整備 ・協働の森づくり ・竹資源の活用 ・植樹活動		○				○	○	H26	P.38
30	H26	福岡県	100年の森を育てる会	筑紫野市	○	○	○		人々が集う里山で森林環境教育や里山文化の継承に取り組む	・環境教育 ・里山文化の継承 ・森林インストラクター	○							H26	P.40
31	H26	長崎県	環境保全教育研究所	長崎市		○	○		持続可能な竹林整備と人が集まる場所の創造を目指して	・竹資源の活用 ・荒廃竹林の整備 ・地域交流 ・竹細工教室 ・自然体験活動 ・生物多様性保全	○					○		H26	P.42
32	H27	岩手県	紫波地区区里山林保全活動実践協力会	紫波町	○				あるものを活かした里山再生でも地域も元気に	・担い手育成 ・新たな雇用創出 ・造林事業 ・林業活動組織の再結成 ・地域協議会との連携 ・森林組合との連携	○		○		○	○		H27	P.2

No	年 度	活動組織		活動タイプ					活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例				継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 ・里山林 ・山林 ・竹林 ・竹林 ・整備	森林資源 利用	教育 ・研修 活動 (※1)	森林機能 強化 (※2)			機械及び資材 の購入									
33	H27	宮城県	権現森自然研究会	仙台市	○		○			地域共有の財産として豊かな権現森を将来に伝える	・市民センターとの連携 ・小学校等との連携 ・自然体験活動	○							H27	P.4
34	H27	秋田県	ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト	能代市			○			身近な森林は宝の森林	・木の駅プロジェクト ・地域通貨	○	○						H27	P.6
35	H27	群馬県	桜山ぎづきの森	藤岡市	○		○			資機材を充実することで安全性の確保と資源利用を進める	・資機材の充実 ・間伐材の活用 ・WebサイトでのPR ・業者委託		○					○	H27	P.8
36	H27	東京都	あきる野野生の森づくり協議会	あきる野市	○		○			産学公と地元の連携による森林管理と地域活性化の取組み	・自然体験活動 ・現場研修 ・産学公による協定 ・企業との連携 ・団体との連携 ・大学との連携						○		H27	P.10
37	H27	埼玉県	狭山丘陵の森レスキュー隊	所沢市	○					少人数でもできる都市型里山林整備	・専門家との連携 ・都市近郊林の整備 ・不法投棄防止 ・薪ストーブ関連団体との協働 ・森林資源の活用	○					○		H27	P.12
38	H27	神奈川県	NPO法人三浦半島生物多様性保全	横須賀市	○		○			若い世代が参加した森林整備による生態系保全	・若い世代の参加 ・生物多様性保全 ・自然観察会			○					H27	P.14
39	H27	岐阜県	NPO法人 竹林救援隊	各務原市	○		○			地域に密着した竹林整備活動	・放置竹林の整備 ・竹資源の活用 ・新たな市民活動の場						○		H27	P.16
40	H27	静岡県	麻機自然体験コミュニティ「Balance」	静岡市	○		○			多様な主体との連携による竹チップの資源化の実現	・竹資源の活用 ・多様な主体との連携		○				○		H27	P.18
41	H27	愛知県	特定非営利活動法人 海上の森の会	瀬戸市	○		○	○		地域の特性を理解した森林管理が生み出す美しい里山景観	・土砂崩れ防止 ・作業道の整備 ・地域の安全性の確保 ・生物多様性保全 ・景観の向上				○		○		H27	P.20
42	H27	三重県	伊賀の里山整備・利用を考えるグループ	伊賀市	○		○			竹林・里山整備による地域振興の推進	・里山の整備 ・竹資源の活用 ・自然体験活動 ・自然観察会 ・大学との連携		○				○		H27	P.22
43	H27	滋賀県	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	長浜市				○		豊かな生態系を次の世代に引き継ぐための森を活用した環境教育	・環境教育 ・生物多様性保全 ・森林組合との連携 ・自治体との連携						○		H27	P.24
44	H27	京都府	京丹後木の駅実行委員会	京丹後市	○		○			市と地元住民協力のもと、森林整備・地域活性化を推進	・木の駅プロジェクト ・地域通貨 ・間伐材の活用 ・商店との連携		○					○	H27	P.26
45	H27	和歌山県	河和の森 保全の会	橋本市	○		○			地域と外部の協力関係によって実現した良好な森林整備	・地域との連携 ・地域の環境改善活動との連携 ・下層植生の再生 ・景観の向上	○							H27	P.28
46	H27	岡山県	NPO法人倭文の郷	津山市	○		○			古代の歴史を体験できる里山	・自然体験活動 ・景観の向上						○		H27	P.30

No	年 度	活動組織		活動タイプ				活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例				継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 里山林 保全	森林資源 利用	教育・研修 活動 (※1)			森林機能 強化 (※2)	機械及び資材 の購入	森林の活用 による にぎわ い・交 流	森林の めぐみ による 地域の 活性化	森林に 関わる 教育・ 自然体 験	生物多 様性保 全	災害に 強い森 づくり	活動の 仲間集 めの工 夫		
47	H27	広島県	美鈴恵みの森づくり	広島市	○	○	○	○	里山の再生を通じて 地域の魅力を向上	・作業道と遊歩道の一体整備 ・自然体験活動 ・地域の魅力の向上 ・安全管理	○			○	○	○	H27	P.32	
48	H27	高知県	白木谷ゆめクラブ	南国市					放置竹林解消の広が りが生み出す地域の 活性化	・放置竹林の整備 ・タケノコ販売 ・雇用創出 ・企業とのマッチング ・安全管理 ・県との協力	○			○		○	H27	P.34	
49	H27	福岡県	金剛山もととり保全協議会	直方町	○	○			50年前の里山を再生	・景観の向上 ・間伐材の活用 ・自然観察会 ・希少生物の保全 ・植生の回復 ・安全管理		○			○		H27	P.36	
50	H27	宮崎県	駄留地区鳥獣被害対策協 議会	木城町	○	○	○		地域活性化をもたら す森林整備と攻めの 鳥獣被害防止対策	・薪ストーブの活用 ・地域交流 ・森林管理署との協定締結 ・鳥獣害対策	○						H27	P.38	
51	H27	鹿児島県	知覧町たけのこ振興会	南九州 市	○	○			地域の観光地や歴 史的風景と調和した竹林 整備で地域を元気に する	・竹資源の活用 ・観光資源 ・社会人の参加促進	○			○		○	H27	P.40	
52	H28	北海道	大沼流山森づくりネット ワーク	七飯町	○	○	○		馬を活用した空間利 用と生産の融合を目 指す森づくり	・馬を活用した森づくり ・里山の整備 ・地産地消 ・メープルシロップ ・森林資源の活用	○			○			H28	P.5	
53	H28	青森県	白神山地を守る会	青森市		○			自生するクロモジの 高付加価値化の取組	・協働の森づくり ・地域との連携 ・企業との連携 ・伐採木の高付加価値化	○					○	H28	P.7	
54	H28	山形県	しらたか森づくりの会	白鷹町	○				住民参加による森づく りとまちづくりの運動	・地域との連携 ・住民参加型のまちづくりの取組と運動 ・団体との連携 ・安全管理	○				○		H28	P.9	
55	H28	福島県	白河高原薪の会	西郷村		○			薪ストーブの普及と一 体で進める里山整備	・薪ストーブの普及 ・木材資源の地域内の循環利用 ・森林資源の活用 ・作業道の整備 ・伐採木の放置防止 ・安全管理	○				○		H28	P.11	
56	H28	新潟県	お山の森の木の学校	阿賀町	○	○	○		地域特有の天然スギ を観光資源とした地 域振興	・観光資源 ・遊歩道の整備 ・地方紙への活動案内掲載 ・安全管理			○				H28	P.13	
57	H28	山梨県	NPO法人 自然とオオムラ サギに頼む会	北杜市			○		国蝶オオムラサキを 守る里山整備	・地域間交流 ・学生の参加 ・国蝶オオムラサキの保護 ・多様な主体との連携 ・専門家との連携 ・企業との連携 ・安全管理	○				○		H28	P.15	
58	H28	静岡県	時ノ寿の森クラブ	掛川市		○	○		将来の夢「夢マップ」 の実現に向けた活動	・地域間交流 ・ソーシャルビジネスの推進 ・林業事業体との協力	○		○		○		H28	P.17	

No	年 度	活動組織		活動タイプ					活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例				継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 ・里山林保全	森林資源利用	教育・研修活動 (※1)	森林機能強化 (※2)			機械及び資材の購入	森林の活用による交流	森林のめぐみによる地域活性化	森林に関する教育・自然体験	生物多様性保全	災害に強い森づくり	活動の仲間への工夫	活動メンバーの意識向上・スキルアップ		
59	H28	奈良県	NPO法人森づくり奈良クラブ	奈良市	○				県有林に侵入した竹林を整備して、景観を取り戻す	・景観の向上 ・竹資源の活用 ・安全管理 ・県との情報交流	○	○	○			○			H28	P.19
60	H28	島根県	高田里山を守る会	津和野町	○	○	○	○	森林調査を行いながら、かつての里山再生を目指す	・地域交流 ・高齢者の生きがいづくり ・間伐材の活用 ・鳥獣害対策 ・安全管理	○	○				○		H28	P.21	
61	H28	山口県	ふくの森の会	下関市	○	○	○		落葉広葉樹3896本の森で里山アウトドア活動	・自然体験活動 ・健康の向上 ・地域産のドングリ ・補植用苗の育成 ・獣被害の軽減 ・希少生物の保全	○	○	○					H28	P.23	
62	H28	香川県	東かがわ市北山森林ボランティア会	東かがわ市	○		○		登山道の安全性確保から広がる山での取り組み	・遊歩道の整備 ・キノコ類の栽培 ・幼稚園との連携 ・土地所有者との連携 ・自然体験	○	○				○		H28	P.25	
63	H28	佐賀県	特定非営利活動法人森をつくろう活動組織	神崎市	○				共生をテーマに森林保全、竹林管理	・荒廃竹林の整備 ・民有地の地域への開放 ・地域との連携 ・植樹活動	○	○						H28	P.27	
64	H28	長崎県	玉之浦樺の森保全会	五島市	○				地域特産物の樺の活用による地域活性化を目指した森林整備	・地域資源の活用 ・景観の向上 ・観光資源 ・自治体との連携 ・森林組合との連携		○				○		H28	P.29	
65	H28	大分県	NPO法人 いきいき安心おいだ	大分市	○	○			多様な主体との連携による竹の資源化を通じた地域活性化	・荒廃竹林の整備 ・竹資源の活用 ・自治体との連携 ・大学との連携 ・多様な主体との連携 ・不法投棄防止		○					○	H28	P.31	
66	H28	沖縄県	首里城古事の森育成協議会	国頭村	○		○		大径木材を育てて沖縄県の文化を伝える	・大径木資源育成 ・小学校等との連携 ・森林管理署との連携 ・苗木の植栽	○	○				○		H28	P.33	
67	H29	北海道	硫酸山の森を育てる会	磯谷郡蘭越町	○	○	○	○	－	・自然再生 ・専門家との連携 ・WWOOF登録者の受け入れ ・山菜の移植			○				○	H29	P.3	
68	H29	群馬県	わたらせ薪倶楽部	みどり市		○			－	・薪炭の販売 ・薪割体験会 ・広報紙、新聞、TVによる活動紹介		○	○			○		H29	P.5	
69	H29	千葉県	里山むつみ隊	八千代市	○			○	－	・地域交流 ・自然体験活動 ・市主催団体との連携 ・生物多様性保全 ・希少生物の保全	○	○				○		H29	P.7	

No	年 度	活動組織		活動タイプ				活動事例集の タイトル	取組内容の キーワード	地域活性化の事例					継続的活動や自立化の事例				事例集 リンク	事例集 掲載 ページ
		都道府県	団体名	活動場所	地域環境保全 ・里山林保全	森林資源利用	教育・研修活動 (※1)			森林機能強化 (※2)	機械及び資材の購入	森林の利用による 交流	森林のめぐみによる 地域の活性化	森林に関わる教育・自然体験	生物多様性保全	災害に強い森づくり	活動の工夫 仲間の	活動メンバーの意識 向上・スキルアップ		
70	H29	滋賀県	山中比叡平里山倶楽部	大津市	○	○	○	○	—	・生物調査 ・森林イベント開催 ・専門家との連携 ・薪炭の販売 ・鳥獣害対策 ・企業との連携	○	○	○				○	○	H29	P.9
71	H29	大阪府	高槻里山ネットワーク	高槻市	○	○	○	○	—	・会員間の交流 ・竹資源の活用 ・環境教育 ・多様な主体との連携 ・企業との連携	○	○	○		○			○	H29	P.11
72	H29	兵庫県	NPO法人あいな里山茅葺同人	神戸市	○		○		—	・地域交流 ・環境教育 ・希少生物の保全 ・大学からの活動資金助成 ・専門業者への委託	○	○	○				○	○	H29	P.13
73	H29	島根県	出西・里山再生の会	出雲市		○		○	—	・竹資源の活用 ・自然観察会 ・専門学校との連携 ・ドローンの活用 ・作業道の整備	○	○	○					○	H29	P.15
74	H29	徳島県	木沢みつまたクラブ	那賀郡那賀町	○			○	—	・地域間交流 ・ミツマタ栽培 ・鳥獣害対策 ・景観の向上 ・大学との連携	○	○	○				○	○	H29	P.17
75	H29	福岡県	竹やぶ掃除会	糸島市		○			—	・竹資源の活用 ・薪炭の販売 ・竹灯籠づくり研修会 ・自然体験活動 ・景観の向上 ・安全管理	○	○	○					○	H29	P.19
76	H29	熊本県	山都町竹資源利活用協議会	上益城郡山都町		○		○	—	・6次産業化 ・竹資源の活用 ・大学との連携 ・景観の向上							○	○	H29	P.21

2.モニタリング調査のガイドラインの普及に向けた現地検討会の開催

現地検討会の開催概要は以下のとおりである。

(1) 熊本県開催

実施日：平成30年11月26日（月）13時～17時
場所：熊本県林業研究指導所 会議室 及び 周辺森林（立田山憩いの森）
参加者：熊本県内の活動組織、熊本県、佐賀県、鹿児島県、沖縄県の協議会
林野庁評価検証事業検討委員会委員
林野庁関係者
林野庁評価検証事業の受託者「三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）」
協力団体：熊本県森林・山村多面的機能発揮対策協議会
熊本県林業研究指導所
主催者：林野庁評価検証事業の受託者「三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）」

内容：

1. 開会

挨拶 林野庁

【屋内研修】

2. 調査方法等の説明

① プロット調査説明 講師：井野事務局長
(熊本県森林・山村多面的機能発揮対策協議会)

② 植生調査 講師：横尾部長（熊本県林業研究指導所）

③ 胸高断面積調査 講師：寺本研究員（熊本県林業研究指導所）

3. 目標林型について 講師：宮本次長（熊本県林業研究指導所）

4. 質疑応答

【実習】

5. 立田山内の里山 講師：宮本次長

6. 木の混み具合調査 講師：井野事務局長、宮本次長

7. 植生調査 講師：横尾部長、寺本研究員

8. 見通し調査 講師：井野事務局長、宮本次長、横尾部長、寺本研究員

【屋内研修】

9. 野帳整理 講師：井野事務局長、宮本次長、横尾部長、寺本研究員

10. まとめ

参加者（活動組織）：

熊本市 特定非営利活動法人たみの楽園

阿蘇市 自遊の森里山の会

上天草市 くまもと森林倶楽部まつしま

熊本市 センダンと里山保全の会

阿蘇市 萩の草里山協議会

山都町 長迫林造林組合
上天草市 一般社団法人未来創造あまくさ
天草市 天草里山会
山都町 柳井原活動組織
山都町 山都竹琉
天草市 古江の里山景観を守る会
相良村 相良村森林組合
熊本県森林・山村多面的機能発揮対策協議会
佐賀森林山村対策協議会
公益財団法人かごしまみどりの基金
おきなわ森林・山村協議会

(2) 長野県開催

実施日：平成30年12月9日（日）10時～15時
場所：西原ぶどう園（西原農村交流施設）及び同園南側の山林
活動組織 NPO 法人 F.O.P 活動山林
参加者：長野県上伊那地域振興局及び南信州地域振興局管内の活動組織
長野県上伊那地域振興局
中川村役場
長野県協議会
林野庁評価検証事業検討委員会委員
林野庁担当者
林野庁評価検証事業の受託者「三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）」
主催者：中川村役場
協力者：長野県協議会
長野県上伊那地域振興局及び南信州地域振興局
林野庁評価検証事業受託者「三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）」

内容：

1. 開会

挨拶 中川村役場、林野庁

【実習】

2. 調査方法等の説明・実習

講師：特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー 丹羽健司氏（検討委員会委員）、山造り研究所 代表 鬼頭志朗氏

① 森の健康診断手法

② 森の健康診断とモニタリング調査の対応関係

3. 質疑応答

【屋内研修】

4. 野帳整理説明 講師：丹羽氏・鬼頭氏
5. 質疑応答
6. 講評

【意見交換】（希望者を対象）

7. 質疑応答
8. 活動団体の取組、課題について発表
9. まとめ

参加者（活動組織）：

信州伊那炭窯会活動組織
老松場の丘・古墳公園整備委員会
まつの会
守屋山麓保全会
箕輪ダム水源山麓保全会
下古田松茸生産組合
舟山クラブ
沖町の森林保全の会
南陽親林の会
桑原松茸の会
なかがわ里山保全会
美里がんばらん会
天のなかがわ森の学び舎
なかがわ木の駅チーム
NPO法人F.O.P
和合山守
野池愛林農業協同組合
柿野沢育林学校

3.森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーの開催

全国の協議会や都道府県の関係者が出席する場において、森林・山村の多面的機能の発揮に対する効果の評価手法に関する基調講演、(5)①により調査した活動事例のうち3団体の活動組織から、他地域の参考となる取組を行っている活動の報告や交付金活動に対する社会的価値の可視化に関するパネルディスカッションを通じて、関係者で情報共有することを目的とするセミナーを開催した。

(1) 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーの概要

図表 45 普及セミナー概要

項目	内容
目的	森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動団体の優良取組事例、協議会活動の情報共有
対象	協議会、都道府県の交付金担当者など
開催日時	平成31年2月13日(水) 10時00分～15時00分
会場	いきいきプラザ一番町 カスケードホール(東京都千代田区)
プログラム	10:00～10:05 開会挨拶 10:05～10:50 基調講演 講演者：明治大学 経営学部 教授 塚本一郎 タイトル：地域住民が行う環境保全活動を評価する手法について 10:55～12:05 活動組織の活動事例報告・質疑応答(3団体) 一般社団法人もりびと(千葉県) 西根森づくりの会(山形県) フォレストセーバー「正人どんの郷」(福岡県) 12:05～13:00 昼休み 13:00～15:00 パネルディスカッション テーマ 森林・山村の多面的機能発揮に対する社会的価値の可視化の意義 コーディネーター 西田 貴明 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 研究開発第1部 副主任研究員) パネリスト 塚本 一郎 (明治大学 経営学部 教授) 丹羽 健司 (特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー) 森本 淳子 (北海道大学大学院 農学研究院 准教授) 原田 明 (一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部 コミュニティビジネスチーム長) 井野 道幸 (熊本県森林・山村多面的機能発揮対策協議会 事務局長) 木下 仁 (林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長) 15:00 閉会 (敬称略)
参加者	85名(うち1名は都道府県担当と協議会担当を兼任) 都道府県担当者：31名 協議会担当者：43名 活動組織：4名 検討委員：4名 基調講演：1名 その他：3名

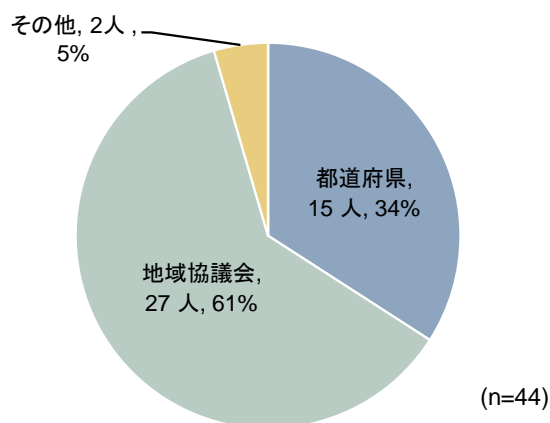
(2) 参加者アンケートの結果

セミナーの参加者に実施したアンケートの集計結果を以下に示す。

配布方法	当日会場受付にて配布資料とともに配布
回答数	44 通

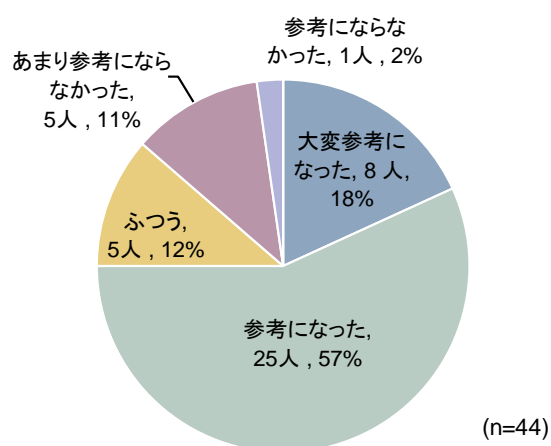
Q 1 : 御所属を教えてください (単一回答)

図表 46 所属



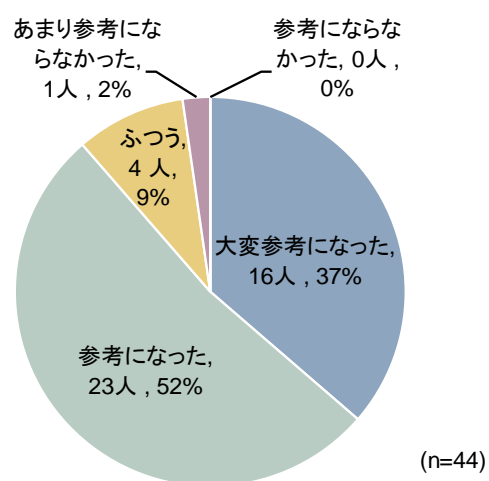
Q 2 : 「基調講演」の感想を教えてください (単一回答)

図表 47 「基調講演」の感想



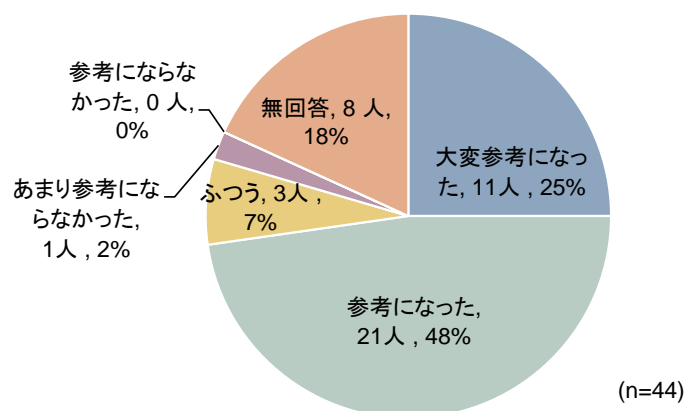
Q 3 : 「活動団体の発表」の感想を教えてください（単一回答）

図表 48 「活動団体の発表」の感想



Q 4 : パネルディスカッションの感想を教えてください（単一回答）

図表 49 パネルディスカッションの感想



Q 5 : 参加しての御感想、御意見を記入ください。(自由記述)

図表 50 参加しての感想、意見

項目		内容
社会的 価値の 可視化 に対して	肯定的な 意見	本県では活動を希望するボランティア団体が少ないため、評価検証事業の結果を使って団体の発掘をしたい。
		事業の評価・検証は必要。ただ、本事業のみの検証だけでなく、より総合的な視点が重要ではないか。
		新たな視点を本事業に関して提示していただき感謝します。
		現在の ver. でも良いので、簡便な評価ツールを配布してもらえると助かる。「団体へのアンケート様式」、「評価ソフト(表計算ソフト程度でも)」等。多面的交付金に関わらず、ソフト事業には効果の説明が付いてまわるので。
		可視化にはデメリットもあるが、メリットもあるのでそこを上手に使うことが大切だと思った。
	懸念点の 指摘	森林の多面的機能は多くの金銭的価値があると思うが、他産業でも検証された際に、安かった場合、切り捨てられはしないかと思った。
		モニタリング調査により「参加者の士気が向上」、「活動が効率的になった」といえないなら、可視化の目的を変更するべきでないか。
		活動団体による評価実施の意義はあるが多大な事務負担が生じないように配慮する必要がある。
		どんどん交付金の目的からずれている。何のための評価なのか、誰のための評価なのかが不明確。
		指標をみると、教育・研修活動タイプこそが評価されるようにみえるが。教育研修活動が対象外となるのであれば、不適切ではないか。
		貨幣化するために、プロの単価を使う、異なる作業経費を使うなど目標値に近づけるための操作が可能であり、こうした指標を外部向けの説明や根拠に使われることは危険と考える。特に、一般の人は評価に当たっての活動時間数などの前提条件を考慮せずに出された結果のみを信用してしまう。
		基調講演の評価手法を活動団体にさせるのは困難と思います。今、モニタリング調査も苦勞しています。
		行政レビューや社会全体の流れからモニタリングや可視化の必要性は理解できるが、優秀な活動団体しかできないような気がする。他の補助金同様、年々厳しく細かくなっていて組織力、資金力がある団体しか生き残っていけないようにも思う。現実の問題として申請団体が小規模であることから、今後希望が減り、当該交付金の存続が危惧される。
その他	交付金事業 に対して	年々高齢化していく活動組織をどのように活性化していただくのか、後継者をどう集めるのか? 良いプランを皆で検討すべき時に来ているのではないか。
	プログラム について	各協議会担当者がじっくり意見交換や問題解決出来る時間を取っていただけるとありがたい。

(3) 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーの要旨

①.開会挨拶（10:00～10:05／5 分）

木下 仁（林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室 室長）

（要旨）

- ・ 平成 25 年度に本交付金の事業が開始し本年度で 6 年目になる。昨年 5 月に森林経営管理法が成立し、森林管理者自らが適切な管理ができない森林については意欲と能力のある経営者に集約する、又は、市町村で公的管理を行う仕組みができています。
- ・ 平成 31 年 4 月からは森林環境贈与税を市町村で利用することになっており、新しい森林管理のステージに進むことになる。
- ・ 中でも地域住民が森林の活動に参加することは非常に重要であり、本交付金を通じてこれらの活動を促していく必要がある。
- ・ 平成 28 年度の行政事業レビュー公開プロセスを受けて、各活動組織で自らの活動を評価するモニタリング調査を開始した。本年度長野や熊本で開催したモニタリング調査の現地検討会で、皆様から頂いた意見等も踏まえてガイドラインの見直しを検討したい。
- ・ 本事業は森林整備以外に山村地域のコミュニティの活性化などにも大きな効果を発揮しているため、森林整備効果以外の部分も含めた活動組織の活動効果について客観的に評価する手法の検討を進めているところであり、パネルディスカッションでも議論する。
- ・ 市町村が活動内容の有効性・妥当性を確認するという仕組みや、活動組織が自らの活動の達成状況を確認するためのモニタリング調査を実施する仕組みを設けたことに引き、さらなる検討や見直しを踏まえて、よりよい事業や成果を示すことのできる活動を行う必要がある。

②.基調講演（10:05～10:50／45 分）

塚本 一郎（明治大学 経営学部 教授）

（要旨）

- ・ 社会的評価を行う意義は、「①事業改善に役立つ」、「②説明責任を果たす」、「③知識生成ができる（社会的に新たな価値を発信する）」の 3 つである。
- ・ 評価には、「プロセス評価」と「インパクト評価」の 2 種類ある。特に「インパクト評価」はステークホルダー間の共通言語ができる利点もある。
- ・ このインパクト評価には「費用便益分析」と「費用効果分析」の 2 種類があり、これらにより事業効果や効率性を評価している。

- ・中でも費用便益分析の一種として SROI（社会的投資収益率）がある。SROI の大きな特徴は参加型、すなわち評価の項目をステークホルダーで決定することでどのような社会的価値が生み出されるかを明確にし、この価値を貨幣化して表現することである。
- ・評価の重要なポイントは、単に活動により変化した部分を効果として捉えるだけでなく、活動を行わなかった場合の効果（死荷重）やアンケートなどにより意識変化を評価できることである。
- ・SROI の流れは、「①評価対象の決定」、「②インパクトマップ（効果のポイント）の決定」、「③アウトカム（成果）を証明するデータの収集」、「④死荷重の評価」、「⑤インパクトの確定」、「⑥貨幣換算」である。したがってデータ管理や貨幣化しにくいアウトカムをどのように評価するかが重要である。
- ・活動した価値を図る方法として、機会費用法（労働を提供しなかったことにより失った賃金）と代替費用法（類似する仕事を専門職に頼んだ場合の費用）の 2 つがあり、環境保全には「代替費用法」が、環境教育には「機会費用法」が適用されることが多い。
- ・SAVEJAPAN における 2014 年の活動実績を用いて SROI の評価を実施したところ、SROI が 1.76 という結果となり、一定の成果が見える化する形となった。これにより団体間の共通言語が生まれ、社会的信頼が生まれることにつながっている。
- ・一方で評価を行う上で課題は残されており、データマネジメントやプロセス評価、貨幣化できない価値の表現など留意点は複数ある。今後は団体間の比較に耐えられるものを検討するため、評価のガイドラインを作り標準化を進める必要がある。

③.活動組織発表（10:55～12:05／70 分）

発表団体 1：一般社団法人 もりびと〈千葉県〉

（要旨）

- ・30～80 代の 15 名で天然林と人工林、梅林が混合した森林で活動を行っている。
- ・急峻な斜面など、重機を入れて作業を行うこともあり、切り出した樹木は丸太や薪として販売している。
- ・若者が持続可能的に活動を継続できるようにするため、「収益化」を非常に重要視している。重機が入れないような場所にある直径 1 m 以上の大径木をツリークライミングにより伐採する技術を学び、近隣の危険木の伐採を事業化して収益を挙げている。
- ・またチェーンソー講習などの技術講習を内部で実施して技術継承を行っている。
- ・伐採木の活用として、クラフトキットや竹炭うどん、猪油の石鹸などのオリジナル商品



一般社団法人 もりびと

の販売や体験教室を実施し収益化している。

- ・ その他にも千葉県南部の侵入竹増加の対策として、竹を収益化できれば伐採が進むと考え、周辺 2 市 3 町と連携して千葉県ならではのメンマづくりを行っている。

発表団体 2：西根森づくりの会〈山形県〉

(要旨)

- ・ 20～80 代の 32 名により活動を実施しており、隣町の若者や U ターンなど様々なメンバーで活動を行っている。
- ・ 勸進代地区の約 280ha を管理しており、そのうち約 180ha については区の管理地であるため管理委託を受けて活動を行っている。
- ・ 本地域では小規模バイオマス発電所が稼働しており、昨年度は 262t を出荷して 160 万円程度の売上があった。
- ・ 大正大学の学生の受け入れを行っており、チェーンソー講習会の開催や、作業道の作業講習会により山と関わりを持ってもらえるような場作りを行っている。
- ・ 今後は勸進代地区以外にも周辺には手付かずの山が多くあるため、活動を拡大していくことを検討している。活動を通じて地域の連携が強くなったように思うので、地域の人が訪れやすく経済性が高い山の整備を目指す。



西根森づくりの会

発表団体 3：正人どんの郷〈福岡県〉

(要旨)

- ・ 隣接する里山の荒廃が進み、樹木や竹が住居に覆いかぶさり始めたことをきっかけに活動を始めた。
- ・ 一昔前の里山を復活させることで、集落の子どもたちに自らと同じ経験をさせてあげたいという想いがある。
- ・ 竹の伐採や粉碎については独自に方法を研究し活動を進めている。特に伐採した竹を有効活用するために竹活用セミナーを開催し、近隣地域や県、市と連携している。
- ・ 活動により林道が整備され、明るくなった森林の中でヨガの開催や子ども向けのツリークライミング開催し、地域住民や子どもたちが楽しめる森づくりを進めている。



正人どんの郷

- ・ 今後はツリーハウスやウッドデッキの整備を検討しており、より地域の方が親しみの持てる森づくりを目指している。特に、近隣地域も含めて九州豪雨の際に発生した流木の扱いに困っているため、うまく利活用することを検討している。
- ・ 活動の進んだ現在では、子どもたちが森林内で遊べ、地域住民の方が交流できる楽しい山になっている。山から得た林産物を売るだけでなく、森林を中心に地域がまとまるような効果もあり非常に良かった。特に交付金で整備した林道を地域の中学校の陸上部がクロスカントリーコースとして利用するなど、地域の山として大切にされている。

主な質疑

Q. イベントの参加費はどの程度徴収しているのか。(西根森づくりの会)

A. (もりびと)

市町村の補助金を頂いたときには参加費はもらわない。

手作りのイベントを開催した場合は 500 円程度である。外部からゲストを呼んだ場合は 3000 円程度を収集しているが、基本的に儲けることを目的としておらず、収支のバランスはほとんどゼロに近い。

Q. 損保ジャパンの SROI の試行事例について、ステークホルダーの人数が多い場合に評価の合意形成はどのように行ったか。(大阪府協議会)

A. (塚本教授)

各地で情報共有会を開催して意見を吸い上げ、中心となる団体で定期的に会合を開催しアウトカムの決定などを実施した。

Q. 第3者による評価に比べてステークホルダーの偏りにより主観的な評価になる気がするが実態はどうなっているか。(岩手県)

A. (塚本教授)

客観性を完璧に担保するためには第三者に評価してもらったほうが良い。一方で、SROI は評価結果を公表するため、自らに対しても一定の厳しさを持って評価できているように思う。

Q. 多面的交付金がなくなった場合に、会が存続できる仕組みがどの程度備わっているか教えていただきたい。(長崎県協議会)

A. (もりびと)

はじめから独立を視点に活動を進めている。会員制度をとっており年間 3500 円を徴収している。活動発表にあったような形でどのように収益化するかを考えて活動している。

A. (西根森づくりの会)

交付金をもらうために会が発足した部分もあり、あまり交付金がなくなったときのことを考えられていないが、法人格の取得を検討している。業務内容としては、林業だけにするか、地域の課題解決の会社にするかはまだ決まっていない。これから検討を行う予定である。

A. (正人どんの郷)

侵入竹が九州は増えているためビジネスに結びつけることを検討している。作製の竹粉をトマトハウスで利用しているが、今度は他の作物でも使えるように研究を進める。NPO 法人格の取得も検討している。

④.パネルディスカッション（13:00～15:00／120 分）

コーディネーター：西田 貴明

（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 副主任研究員）

パネラー：塚本 一郎（明治大学 経営学部 教授）

丹羽 健司（特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー）

森本 淳子（北海道大学大学院農学研究院 准教授）

原田 明（一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部
コミュニティビジネスチーム長）

井野 道幸（熊本県森林・山村多面的機能発揮対策協議会 事務局長）

木下 仁（林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室 室長）

話題提供：宮川絵里香（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 研究員）



パネルディスカッション

話題提供：森林整備等の活動の社会的価値を可視化する

（宮川氏）

- ・ 活動効果を客観的に評価することにより課題の把握や社会的説明責任を果たすことができるため、その必要性が高まっている。
- ・ 午前中に発表された活動組織に御協力いただき評価を試行した。

（評価手法の内容説明は省略）

議題1：評価結果に対する意見

（塚本氏）

- ・ 原単位の設定について他事業の事例を参考に検討できているため、かなり水準の高い検討ができている。一方で指標が全ての団体の特性に合致するかは疑問である。薪の販売などは経済的な指標になるが、活動の結果として生まれたものなので社会的価値に入れ

ても良いかもしれない。全体として控えめな指標になっているので、柔軟性を持って適応できれば良い。

(丹羽氏)

- ・ アウトカムの指標を自らで作っていくことは重要である。活動を進めていく中で、活動組織が指標にしたいと考えることは、活動回数や活動面積、地域への貢献度ではなく、活動の面白さという曖昧な部分にある。これらをどのように言語化し、評価するかについて今後さらなる議論や検討が必要である。

(森本氏)

- ・ この評価は科学者のためにある評価ではなく、活動組織のために行う評価である。最初は森を明るくしたかっただけだが、成長率の向上や生物多様性の形成、子どもたちが遊びやすくなったり、地域の方々交流しやすくなったりする。すぐに効果が出るものとそうでないものがある中で、森林の持つ多面的な機能が具体的に見えてくることに期待している。評価をするために活動をしているわけではないので、活動組織に負担が偏らないようなシステムづくりが必要である。

(木下氏)

- ・ 試算の中身については、見れば見るほど課題は生まれると思うが、何のためにやるのかを意思統一する必要がある。評価をやるために活動をしているわけではないので、今後も議論を続けていく必要がある。

議題2：評価の意義

(塚本氏)

- ・ 活動家は評価についてポジティブとネガティブの両極端の反応を示す傾向にある。しかし、活動が評価されることで共通言語が生まれたことにより、出資者に対して自らの活動のPRができるようになるなど、ポジティブな反応に変わってきた団体もいる。

(丹羽氏)

- ・ 12月に開催された木の駅サミットにおいて評価について議論を行った。アウトカムの種類を多様化させることでより良い評価ができるようになると思う。

(森本氏)

- ・ 生態学の分野では生態系サービスと呼ばれており、1990年代に生態系の価値を経済的に評価することが初めて行われた。目に見えないものに対して価値を与えることが初めて行われるきっかけとなった。

(原田氏)

- ・ 活動の価値を可視化することは評価の目的を明確化することが前提である。活動組織にとって重要なことは、活動予算の継続的な確保である。コミュニティ維持のために継続的な支援を行うだけでなく、活動に対する対価として継続的な支援があっても良い。活動の価値が可視化されることで現場が使いやすい交付金になれば良いと思う。

(井野氏)

- ・ 活動に参加する方々は荒廃した森林を良くしたいと強い思いを持っている方が多い。数値化された評価があれば活動の説明にも役立ち有用である。特に活動が市町村にとっても効果的であることを示すことができれば、連携の促進や補助を受ける上でかなり重要な指標となる。

議題3：評価を進めるための留意点

(塚本氏)

- ・ ある事業で次年度も継続して寄付をもらうお願いとして出資者と面会したところ、出資に対する効果が見えないと出資ができないと言われた経験がある。日頃から評価を受けることを意識してデータを残すことは重要である。
- ・ 現場の人はデータの記録に対してあまり意識が高くないように思う。したがって、データ管理の支援も1つ重要な支援であるように思う。将来的に活動組織が自分たちでデータを管理して評価を実施するために最初は手助けが必要である。

(原田氏)

- ・ 活動効果の可視化に必要なデータは既に協議会に報告されているデータがほとんどである。活動報告書や活動記録などを見れば分かる内容が多い。

(井野氏)

- ・ 昨日担当者会議で配布されたエクセルシートに加えて、活動の記録を入れていけるシートができれば評価は簡単にできると思う。活動組織を増やすためには事務手続きの簡略化は必須である。

(西田氏)

- ・ 面積と関わる人の数で基本的に計算できるようにしたいと思っている。その中で、うまく世間に説明できるようなシートを作成する必要がある。今後はデータを効率的に回収する部分も工夫を考える必要がある。

議題4：評価項目について

(原田氏)

- ・ 森林内の獣害対策以外に森林外（農地や住宅）の獣害被害の減少についても検討が必要である。また、不法投棄の抑制も大きな効果であるように思う。森林や里山には都市公園のような効果もあるため、地域の緑地空間としての効果も併せて検討したい。

(丹羽氏)

- ・ 大切なことは目に見えないということを心に留めておく必要がある。評価の向上が目的になり、活動がつまらなくなることは避けたい。モニタリング調査を導入する際も議論があったが、数字を追うと本来の目的が失われる危うさもあるため、気持ちの良い森を作っていく中で「共通言語として数値化をしている」という意識を持つ必要がある。
- ・ また、この算定式の説明を協議会がどこまでできるか疑問である。そういった課題に直面することを想定して議論や検討を進める必要がある。

(森本氏)

- ・ 活動されている方が貨幣価値に換算されることをどう思っているか気になる。自分たちの想定していなかった効果が見える化されることで新たな活動の原動力になるのであれば良いと思う。
- ・ 生態系サービスの考え方と比較するといくつか抜けている項目があるため、網羅的な検討が必要であるように思う。

(木下氏)

- ・ 本評価の手法は不明瞭な点もまだ多いように思う。どのように使うかなどもう少し検討が必要である。

(西田氏)

- ・ 活動を貨幣換算されたことについてどのように感じたか率直な御意見を御発表いただいた3団体に聞いてみたいと思う。

(もりびと)

- ・ この数字が大きいかわかりにくい。これは多面的機能の交付金の中でやっていることである。子どもたちにイベント等で楽しんでもらうためには多面的機能の交付金の倍以上の活動を行っており、これらを含めると価値は変わってくる。
- ・ 森林インストラクターと一緒に活動しているが、森林整備をすることと生物多様性を目指す時の考え方は全く異なる。何を目標にするかは改めて検討が必要であるように思う。

(西根森づくりの会)

- ・ 第三者に説明する際に結局評価の中身がわからないと意味がない。評価項目については、活動のきっかけがそれぞれ違うので、評価すべき部分もそれぞれ異なるように思う。

(正人どんの郷)

- ・ 里山を守るという森林を身近にするためには里山を守ることが重要であるということを経国の方針でまずは打ち出す必要があると思う。

主な意見・感想

(意見) 活動組織の評価結果については数字だけが他者に伝わるのではないように配慮すべきである。もう一度原点に戻り、誰にとって必要な可視化なのかを話し合ってもらいたいと感じた。(福島県協議会)

(意見) 各活動組織の活動内容は多岐にわたっているが、活動の価値を可視化するとそれぞれの活動が同じような活動に見えてくる。モニタリング調査の議論の際に、それぞれの目標が異なる中で、統一的にモニタリング調査を行うことは難しいという結論であったと思う。活動の多様性を認めるのであれば、今回の価値の可視化はギャップを感じるため、引き続き議論が必要である。(北海道協議会)

今後に向けて

(塚本氏)

- ・ 貨幣化にこだわらないほうが良いような気もするが、活動を可視化する1つの方法として捉えることができれば良いと思う。
- ・ 一方で政策のエビデンスが必要であるということは理解できるので、ある程度のデータを取っていく必要がある。

(木下氏)

- ・ 評価の意義を正確に捉え、活動を効率的に、かつ効果的に振り返ることができるようにするため議論を深めたい。
- ・ 多様化している森林の価値の捉え方について、整理が必要である。森林ヨガなど様々な形で森林の活用が顕在化してきている中で、先日、「森林サービス産業」キックオフ・フォーラムを開催した。新しい時代を見定めて動きを作っていく必要がある。

4.モニタリング調査のガイドラインの改訂

協議会のアンケート・ヒアリング、モニタリング調査結果報告書の分析、モニタリング調査現地検討会の結果を踏まえて、必要なモニタリング調査のガイドラインの検証、見直しを行った。

(1) 調査結果

①.協議会アンケートの分析

協議会アンケートで、モニタリング調査に関する課題を抽出し、解決策を検討した。既にわかっている課題は以下のとおりである。

- ・ 「Q4 活動組織の申請に対する指導・修正内容」で「⑮ モニタリング調査の内容が適切ではなかった」が多い。
- ・ 目標林型に対応したモニタリング調査の方法を選べるように、モニタリング結果報告書の様式で工夫することが考えられる。例えば、モニタリング調査の方法ごとに様式を用意する。
- ・ モニタリング調査方法と様式との関係

図表 51 モニタリング調査方法と様式との関係

モニタリング調査方法	様式
①木の混み具合調査（相対幹距比・間伐率）	ガイドライン P46
②木の混み具合調査（胸高断面積調査）	ガイドライン P48
③植生調査（下層植生調査）	今回作成
④萌芽再生率調査	木の混み具合調査の様式等を準用
⑤樹木の本数調査	木の混み具合調査の様式等を準用
⑥見通し調査	今回作成
⑦苗木の活着状況調査	木の混み具合調査の様式等を準用
⑧竹の本数調査	木の混み具合調査の様式等を準用
⑨木材資源利用調査	木の混み具合調査の様式等を準用
⑪ 用林産物等利用調査	調査野帳等を活用

図表 52 植生調査(下層植生調査)様式例

森林・山村多面的機能発揮対策				調査票	
モニタリング調査(植生調査)野帳				No.	
活動組織名	〇〇保全の会				
活動タイプ	地域環境保全タイプ(里山林保全活動)				
目標林型	広葉樹の森の整備・景観改善・生物多様性に富む森づくり				
数値目標(3年間)	希少種カタクリの個体数を2倍にする。(増加率200%)				
調査区名称	小学校裏山林1林班い小班1	調査区面積	25	m ²	
【初回調査】					
調査年月日	2018年4月1日		調査者氏名	鈴木	
No.	区分	目標とする植物	個体数	備考	
1	希少種	カタクリ	10		
2					
3					
4	※目標とする植物の区分(希少種・里山の指標種)を選択し、植物名を記載				
5					
【年次調査・1年目】					
調査年月日	2019年3月31日		調査者氏名	鈴木	
No.	区分	目標とする植物	個体数	備考	
1	希少種	カタクリ	15		
2	※調査対象の植物種を確認できる時期が限られている場合は、初回調査と同じ時期に実施				
3					
4					
5					
(1年目の改善状況)					
No.	区分	目標とする植物	個体数の増加率	備考	
1	希少種	カタクリ	150%		
2					
3					
4	※事例の場合、1年目で「数値目標(3年間)」は未達成であるが、その半分は達成				
5					
<メモ>					

図表 53 見通し調査野帳様式例

森林・山村多面的機能発揮対策				調査票 No.	
モニタリング調査(見通し調査)野帳					
活動組織名	〇〇保全の会				
活動タイプ	地域環境保全タイプ(里山林保全活動)				
目標林型	広葉樹の森の整備・景観改善・生物多様性に富む森づくり				
数値目標(3年間)	見通し距離を50%改善する				
調査区名称	小学校裏山林1林班い小班1	調査地点	南東方向、赤い杭を設置		
【初回調査】					
調査年月日	2018年4月1日		調査者氏名	鈴木	
No.	定点の位置	視認距離	備考		
1	ヤマザクラの脇	10.0m			
2	南側の作業道の脇	15.0m			
3	目印A	7.0m			
4					
5					
※ 定点調査地の位置(目印を設置した場所、目印に付した番号等)を記載します。					
【年次調査・1年目】					
調査年月日	2019年3月31日		調査者氏名	鈴木	
No.	定点の位置	視認距離	備考		
1	ヤマザクラの脇	15.5m			
2	南側の作業道の脇	20.0m			
3	目印A	10.0m			
4					
5					
※ 調査結果が時期や天候等の影響を大きく受ける場合は、初回調査と年次調査の実施条件を可能な限り一致させる。					
(1年目の改善状況)					
No.	定点の位置	視認距離の改善率	備考		
1	ヤマザクラの脇	155%			
2	南側の作業道の脇	133%			
3	目印A	143%			
4					
5					
※ 事例の場合、1年目で「数値目標(3年間)」はNo.2とNo.3が未達成である					
<メモ>					
見通しを確認する高さは、地上高1.5mとする。					

(2) 現地検討会の結果

①.熊本の現地検討会

1) モニタリング調査ガイドラインへの意見

○目標とする胸高断面積の目安の設定

- ・ 目安を例示すると、全国各地で、その目安を使ってしまう可能性があり、地域・活動団体ごとに検討したほうが良い。

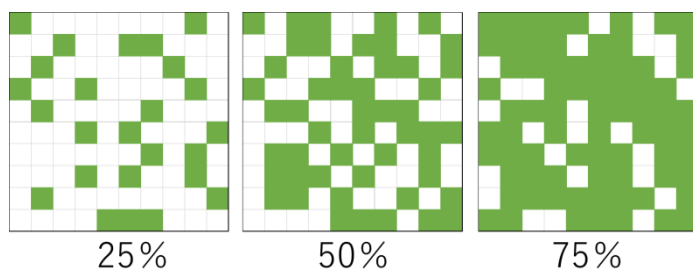
○植生調査において、評価項目として被覆率を追加

- ・ 植生が密な場合、本数をカウントすることは時間を要する。
- ・ 参考となる被覆率の例とその図を示すと目視で確認できる。

図表 54 植生調査の修正

モニタリング調査ガイドライン「③植生調査」「調査方法」

※ 個体数、開花個体数を数えることが困難な場合、群落の面積・被覆率で代用することも可能です。被覆率の目安は以下のとおりです。



②.長野の現地検討会

1) モニタリング調査ガイドラインの更新

- ・ 数値目標の目安は、目標とする林型を地域で探し、そこをモニタリング調査することにより、地域で目標とする林型の数値目標が明らかになる旨を記載したQ&Aなどを追加する。また、目標とする林型への誘導方法のコラムを追加する。

図表 55 目標数値の目安とコラムの追加

Q 8 : 数値目標の目安はどのように決めればよいですか？

A 8 : 数値目標の目安がわからない場合、その地域で目標となるような林型の森林を探し、森林所有者に同意を得た上で、その森林の相対幹距比等を計測することにより、数値目標の目安を決めます。

目標とする林型への誘導方法（参考）

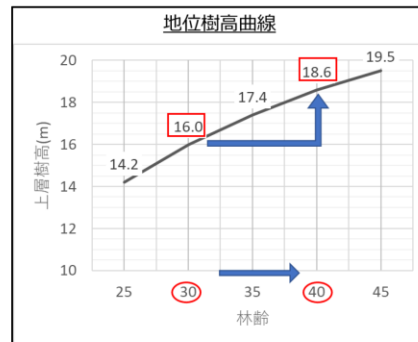
【スギ人工林 30 年生、樹高 16m、立木本数 23 本/100m² の場合】

- 46 ページ「5.参考情報 相対幹距比 早見表」で、現在の相対幹距比を求めます。
- この場合、相対幹距比は 13% となります。このような森林の状態で適当とされている相対幹距比（17～20%）の 17% を目指す場合、立木本数を 23 本から 13 本/100m² に減らす必要があります。

調査区面積 100 m ²	樹高(m)	16	17	18	19
5	28.0	26.3	24.8	23.5	
6	25.5	24.0	22.7	21.5	
7	23.6	22.2	21.0	19.9	
8	22.1	20.8	19.6	18.6	
9	20.8	19.6	18.5	17.5	
10	19.8	18.6	17.6	16.6	
11	18.8	17.7	16.8	15.9	
12	18.0	17.0	16.0	15.2	
13	17.3	16.3	15.4	14.6	
14	16.7	15.7	14.8	14.1	
15	16.1	15.2	14.3	13.6	
16	15.5	14.7	13.9	13.2	
17	15.0	14.3	13.5	12.8	
18	14.5	13.9	13.1	12.4	
19	14.0	13.5	12.7	12.1	
20	13.6	13.2	12.4	11.8	
21	13.3	12.8	12.1	11.5	
22	13.0	12.5	11.8	11.2	
23	12.8	12.3	11.6	11.0	
24	12.8	12.0	11.3	10.7	

【長期的な目標林型に誘導するための間伐の考え方】

- 長期的に目標とする林型を目指す場合、目標達成までの期間を考えます。
- 地位樹高曲線では、例えば 10 年後の上層樹高は 18.6m となっています。
※地位樹高曲線：都道府県で発行する林分収穫表もしくは収穫予想表に、樹種・地位別に林齢ごとの樹高の図表が記載されています。



目標とする林型への誘導方法（参考）つづき

- 前ページの下段のとおり、10 年後の樹高は 18.6m となっていますので、10 年後に相対幹距比が 17% 以上を目指す場合、立木本数は 9 本/100m² となります。

- しかしながら、間伐率が 4 割強と強度な間伐となり、風雪害に弱い状態になる可能性があります。そのため、段階的に目標林型に近づけていきます。

【10 年間の間伐計画】

- 10 年後に相対幹距比を 17%とするには、立木本数を 9 本/100m² まで下げる必要があり、10 年間で立木本数の 6 割程度の間伐が目安となります。

- そのため、5 年間で 7 本/100m²（間伐率 3 割）程度の間伐を行い、10 年後までに再度 7 本/100m²（間伐率 3 割）程度の間伐を行うことにより、10 年後に目標とする林型に近づけることとなります。

- 上記の考え方は、あくまで標準的な間伐の考え方を示したものであり、地域の特性や現地の状況等を考慮して判断していくこととなります。

相対幹距比早見表

調査区面積 100 m ²		樹高(m)			
		16	17	18	19
調査区 内立木 本数 (本)	5	28.0	26.3	24.8	23.5
	6	25.5	24.0	22.7	21.5
	7	23.6	22.2	21.0	19.9
	8	22.1	20.8	19.6	18.6
	9	20.8	19.6	18.5	17.5
	10	19.8	18.6	17.6	16.6
	11	18.8	17.7	16.7	15.9
	12	18.0	17.0	16.0	15.2
	13	17.3	16.3	15.4	14.6
	14	16.7	15.7	14.8	14.1
	15	16.1	15.2	14.3	13.6
	16	15.6	14.7	13.9	13.2
	17	15.2	14.3	13.5	12.8
	18	14.7	13.9	13.1	12.4
	19	14.3	13.5	12.7	12.1
	20	14.0	13.2	12.4	11.8
	21	13.6	12.8	12.1	11.5
	22	13.3	12.5	11.8	11.2
	23	13.0	12.3	11.6	11.0
	24	12.8	12.0	11.3	10.7

(3) 検討委員会委員による提案事項

①.植生調査（植栽木の成長量調査）の追加

現行のモニタリング調査のガイドラインには、針広混交の複層林化及び森林再生（植栽地）において、苗木の活着状況調査はあったが、その後の苗木の成長状況の調査がないため、植生調査（植栽木の成長量調査）を追加した。

図表 56 植生調査(植栽木の成長量調査)

①植生調査（植栽木の成長量調査）

【タイプ：里山林】

調査名	植生調査（植栽木の成長量調査）
調査のねらい	植栽した樹木の成長を促すための雑草木の刈払い等の効果を調べます。
想定作業	雑草木の刈払い、ササ刈りなど
調査区の設定	100 m ² （38 ページ参照）又は、25 m ² （39 ページ参照）
調査内容	<p>【初回調査】</p> <p>調査区内の全ての植栽木について、樹種と樹高を調べます。</p> <p>調査区内に植栽木の成長を阻害する高木等がある場合は、高木等の胸高断面積合計も調べます。</p> <p>【年次調査】</p> <p>初回調査と同様に調査区内の全ての植栽木について、樹種と樹高を調べるとともに、必要に応じて高木等の胸高断面積合計も調べます。</p>
留意点など	<p>初回調査と年次調査は、原則として同じ時期に実施します。（Q & A の Q 1 を参照）</p> <p>胸高断面積合計が高い場合は、相対照度の不足のために植栽木の成長が阻害されている可能性があります。この場合は、改善策として、森林の機能が損なわれない程度に高木等の伐採も検討してみてください。</p>

②.動物の個体数調査の導入について

現在、モニタリング調査のガイドラインでは、「本調査では動物は調査対象外ですが、地域にとって重要と考えられる野生動物の生育環境を改善するために、「里山林の指標種」の位置付けで餌や巣となる植物を増やすことを目標とすることはできます。」（P22）と記載されているところであり、動物の個体数を評価指標とすることは認められていない。

神奈川県（県央地域県政センター環境部）では「ヤマビル対策マニュアル」が作成され、ヤマビルの生息数を調べる方法やヤマビルの生息数と被害発生が目安が示されているところであり、ヤマビルの個体数を調べることによって、森林整備による一定の効果を把握することは可能と考える。

なお、モニタリング調査の調査手法として、動物の個体数調査を導入することについては、引き続き検討していくこととする。

5. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金の紹介パンフレット案の作成

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業を普及していくための紹介パンフレット案を作成した。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金



1. 活動メニュー

地域住民や森林所有者等、地域の実情に応じた3名以上で構成する活動組織が、森林経営計画の策定されていない0.1ha以上の森林を対象として実施する。里山林の保全、森林資源の活用等の取組を支援します。

地方公共団体の支援のある活動や地域コミュニティの活性化を図るための中山間地域における農地等の維持保全にも資する取組を行う場合は、優先的に支援します。

メインメニュー



サイドメニュー



路網の補修・機能強化等 (サイドメニュー)

歩道や作業道等の作設・改修、鳥獣害防止柵の設置・補修等に対し、1m当たり800円の支援を行います。

活動の実施に必要な機材及び資材の整備 (サイドメニュー)

刈払機、チェーンソー、電気鋸、チップパーなど、交付金活動に必要な資機材の購入額の1/2以内を支援します。ただし、林内作業車、薪割り機、薪ストーブや炭焼き小屋については1/3以内を支援します。

3. 支援を受けるには

森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した取組を行うために、以下の要件を満たす活動組織を設立する必要があります。

活動組織 (交付金支援を受けるための要件)

構成員	活動組織の構成員は、地域住民、森林所有者等地域の実情に応じた方(3名以上)で構成してください。地域の自治会、NPO法人等が実施、又は1構成員となることも可能です。なお、活動組織としての規約の作成や区分経理が必要となります。
対象森林	本交付金の対象となる森林は、活動を行う時点において、森林経営計画が策定されていない0.1ha以上の森林です。
活動区域	地域住民、森林所有者等による里山林の保全、利用を支援することが本事業の目的であり、原則として活動組織の事務所は、対象森林と同一都道府県内にいることが必要です。
活動計画書	活動組織名、所在地、取組の背景及び概要、3年間の活動計画(原則として過去に策定した活動計画書に位置付けられていない森林とする。)、年度別の取組内容、計画図、委託内容等を記載した計画書を作成する必要があります。(計画書の作成は交付金の支援対象とはなりません。)

4. その他支援を受ける場合の留意点等

- ・1活動組織当たり、年度ごとに500万円(国からの交付額)を上限として支援(同じ場所では原則3年間支援)します。
- ・人工林でも活用できます。
- ・地域の活動組織が持続的に里山林の整備や利用活動を実施することを基本として、森林整備の作業で危険を伴う作業や専門的な技術が必要な作業等については、地域の森林組合等に作業の一部を委託することができます。
- ・採択に当たっては、会費の徴収等により財政基盤が確保されており、安全研修を計画しているなどの一定の安全技術の向上が期待できる組織を対象とします。
- ・また、活動計画書に活動の目標と活動結果のモニタリング調査方法が記載されているとともに、モニタリング調査を実施する必要があります。詳細は、モニタリング調査のガイドラインや同パンフレットをご参照ください。



2. 活動への支援内容

里山林の保全管理や資源を利用するため、下記のような活動に対して支援を行います。

地域環境保全タイプ (メインメニュー) (里山林景観を維持・保全するための活動)

荒廃した里山林の里山林景観を維持するための活動に対し支援を行います。

具体的には、雑草木の刈払い・集積・処理、落ち葉掻き、歩道・作業道の作設・改修、地寄せ、植栽、播種、施肥、不要萌芽の除去、緩衝帯・防火帯作設のための樹木の伐採・搬出、風倒木・枯損木の除去・集積・処理、土留め・鳥獣害防止柵等の設置、これらの活動に必要な森林調査、安全講習、傷害保険等が挙げられます。

交付単価: 1ha当たり12万円



地域環境保全タイプ (メインメニュー) (侵入竹の伐採・除去、荒廃竹林の整備活動)

交付単価: 1ha当たり28.5万円



侵入竹の伐採や除去活動・荒廃竹林の整備活動に対し支援を行います。

具体的には、竹・雑草木の伐採・搬出・処理・利用、これらの活動に必要な森林調査、安全講習、傷害保険等が挙げられます。

森林資源利用タイプ (メインメニュー) (集落周辺の広葉樹等の伐採・搬出活動等)

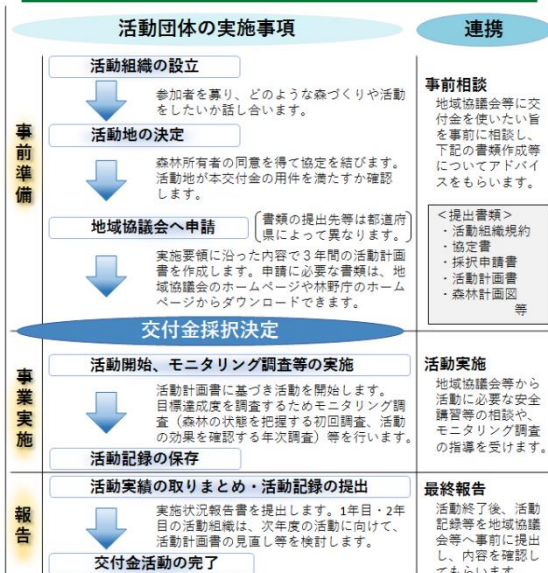
集落周辺の広葉樹等の伐採、搬出活動等に対し支援を行います。

具体的には、雑草木の刈払い・集積・処理、落ち葉掻き、歩道・作業道の作設・改修、木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木・伝統工芸品原料のための未利用資源の伐採・搬出・加工、特用林産物の植付・播種・施肥・採集、これらの活動に必要な森林調査、安全講習、傷害保険等が挙げられます。

交付単価: 1ha当たり12万円



5. 交付金の申請から報告までの主な流れ



6. お問合せ先

詳細については、〇〇地域協議会
 (●●●-●●●-●●●●)までご相談ください。
 〇〇地域協議会ホームページ
 ()

発行 林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室

<http://www.rinya.maff.go.jp/sanson/tamenteki.html>

☎ 03-3502-8111(内線6145) [ダイヤルイン] 03-3502-0048
 FAX 03-3502-2887